2014年度男女共同参画推進シンポジウム

芝浦工業大学2014年度男女共同参画推進シンポジウムー理工系女性研究者のキャリア形成と研究連携ーを開催しました。

女性が少ない工学分野をはじめとする理工学女性研究者の育成・採用・登用を加速する具体的取組を検討することを目的に、１２月１３日（土）、豊洲キャンパスで「２０１４年度男女共同参画推進シンポジウムー理工系女性研究者のキャリア形成と研究連携ー」を開催しました。学内外より103名の皆さまに参加頂きました。

シンポジウムに期待して

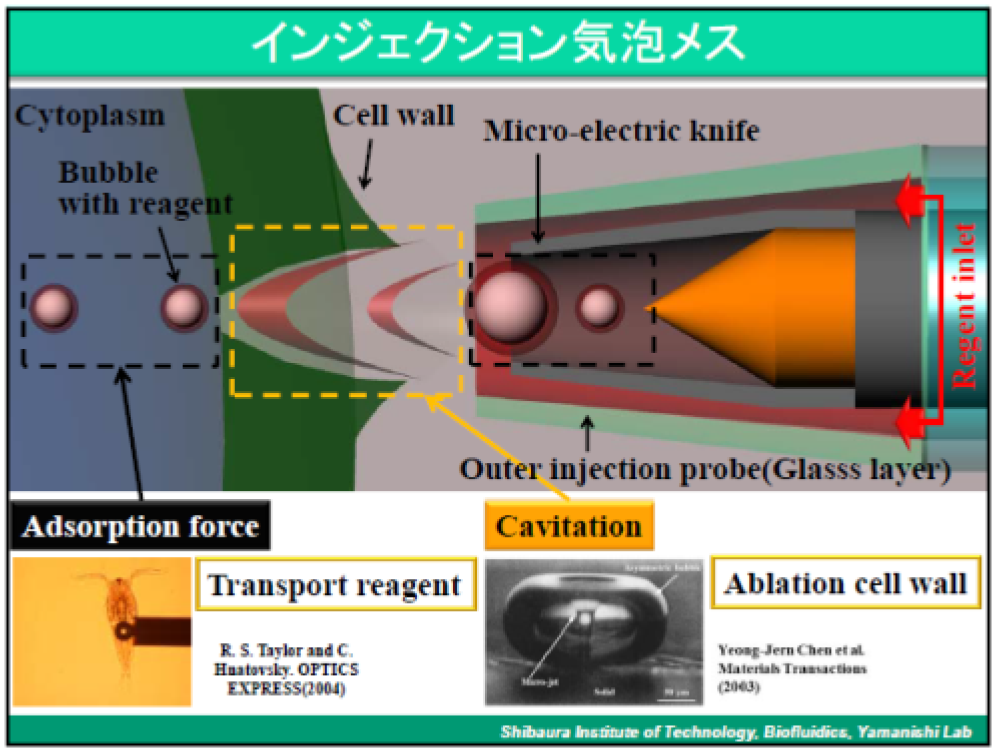
村上雅人学長の「開会の辞」、五十嵐久也理事長の「主催者挨拶」に続き、和田勝行文部科学省科学技術･学術政策局人材政策課人材政策推進室長と、羽入佐和子お茶の水女子大学長より来賓挨拶を頂きました。五十嵐理事長は、長年、日本の産業界に有為な人材を送り出してきた大学、そしてグローバルな大学として恥じない女性技術者・研究者の育成をしていく決意を、和田室長は補助事業が成果をあげることへの期待を、そして羽入学長は「お茶の水女子大学と芝浦工業大学が連携して女性の理工系人材育成輩出の新たなモデルを構築しよう」と述べられました。

‘No data, no problem, no policy’

続いて、山形大学地域教育文化学部河野銀子教授による講演1「科学技術分野の男女共同参画推進ーグローバルな視点から」が行われました。河野教授は、EUの取組みを手掛かりに、日本で、男性に偏っていた科学技術人材、とくにアカデミック・キャリアの上位に女性を増やしていくために、ジェンダー統計を整備し、統計を解釈するための理論を発展させ、分析結果に基づいて政策を立案し、それに、学界、産業界、政策担当者が協働して取組んでいく必要を指摘されました。

5年10年先を見据え、役に立つOnly Oneの技術を作り出す

次に、工学部山西陽子准教授による講演2「医薬理工の異分野融合におけるイノベーションとキャリアパス」が行われました。山西准教授は、まず、自身のキャリアパスを通じて、何が次を拓く転機・契機となったかを振り返られました。次いで、現在取り組んでいる、マイクロ工学とバイオメディカル融合領域での、高速発射気泡による「針なし注射器」の開発研究とその成果、可能性を述べられました。そして、研究生活上大事にしていることして、現状に甘んじず5年10年先を見据えること、社会の役に立つOnly Oneの技術を自分の手で作り出す感動を持ち続けること、人脈を大切にすること（異分野こそチャンス）等を挙げられました。



女性の育成・採用を加速するために

講演を受けて、パネル・ディスカッション「女性研究者の採用・育成加速のためのポジティブ・アクション」が行われました。パネリストは、河野教授、村上学長、村上 公哉理事・工学部教授、井上 雅裕学長補佐･システム理工学部電子制御システム学科主任、山西准教授、コーディネイターはデザイン工学部野田夏子准教授が務めました。ディスカッションでは、芝浦工業大学の女性の採用と育成の加速をめぐって次のようなことが論じられました。まず、産業界とのつながりが強い芝浦工業大学は、民間企業の女性技術者の研究力強化や研究人材としての育成に貢献できる、ということが挙げられました。具体的には、博士後期課程社会人早期終了コースに磨きをかけ、社会人女性大学院生の進学を促進する等です。次に、女性の採用促進を重視したポストの新設、可能性に着目した育成込の女性の積極的採用等「戦略的人事」を展開することです。それは、女性研究者コミュニティ、研究力強化支援・両立支援の充実等によって、優秀な女性研究者や女子学生がめざす大学になる取組みと両輪であることも確認されました。

次へ、そして高いレベルの挑戦を

▲ 科学技術振興機構　講評

しめくくりに、文部科学省和田室長と独立行政法人科学技術振興機構木村忠正プログラム主管よりシンポジウムの講評を頂きました。和田室長は「補助事業をインセンティブに大学としての取組みのしくみを構築してほしい」との、木村プログラム主管は「新技術新産業分野の創出・育成と女性の育成加速・女性研究者増員を併せた取組等、高いレベルの挑戦を」との期待を述べられた。

▲ 男女共同参画推進室長　閉会の辞

國井秀子男女共同参画室長の総括と謝辞を以てシンポジウムを閉じました。

› 芝浦工業大学2014年度男女共同参画推進室シンポジウム「理工系女性研究者のキャリア形成と研究連携」参加者アンケート結果（抜粋）

〒337-8570　埼玉県さいたま市見沼区深作307（大宮キャンパス）

E-mail:desk-gequality@ow.shibaura-it.ac.jp